

誰もが人間として生きていくうえで 侵すことのできない当然の権利

これが『人権』です

差別のない町をつくらう...第20回「5・23差別をなくす山都地区集会」

5月23日(土)、矢部中学校体育館において第20回「5・23差別をなくす山都地区集会」が開催されました。保育園児や小中学生、保護者、教師など、700名を超える参加者がありました。本集会は部落差別をはじめ、いじめや仲間はずしなどのあらゆる差別をなくしていくことを目的に、子どもたちが主体となり、それに関心する大人も共に学び合う集会です。開会前のオープニングは、児童館で練習をしている「矢響太鼓」。児童館での日ごろの練習の成果を、力強いパチさはきで披露しました。

同和保育園の園児、先生は「どろんことたいよう」「さんぽ」「こりのうた」を爽やかに合唱しました。

決意表明では、「解放子ども会小・中支部とその仲間たち」による解放劇「残す」、蘇陽南小学校からは命がけのたたかい「中島小学校は壁面から学んだこと」、家族のがんばりを発表しました。

参加した子どもたちから「人権の大切さ」について思ったことや感じたこと、なぜ参加したのかなど感想も発表されました。参加した多くの方々は、子どもたちが会場の前列にずらりと並んだ姿と、純真で力強い発表に感動していました。

今や、保育園や学校においては人権学習の集大成として、この5・23集会を捉え取り組みを深めておられます。その成果として、「おかしなことはおかしと言えぬ力」「差別は絶対許さない」という力を確実に身につけています。

しかし、同和教育に対する予断や偏見はまだ根深く、差別をなくすには引き続き教育・啓発が重要です。この純真な子どもたちの心を汚すことがないよう、大人も真剣な学びが必要です。

- (スローガン)
- 1・一人でも リボン登校をする！
 - 1・私は絶対に差別を許さない リボンを付ける一人でも 社会に挑む！
 - 1・「人権条例」を 実効あるものにしてよう
 - 1・学力保障・進路保障 私たちの闘いでこどもを 未来を切り拓こう

書道

間中酒静裏泉

乙未 白半月 美枝書

季節のうた

馬見原酔山会

青あらし岩戸へ峠越えにけり
草茂ら負けじと地蔵背伸びして
草刈れば芥も混じりて香り立つ
やまなみの会「山脈」
指ほどの太いせんまい選くてら
丁寧な代田を掻き種おろす
今一度初心にもどり若葉風

通潤句会

青梅雨の夕べ鏡の音沈みゆく
をちこちに風の生まら植田かな
朝日受け植田日ごとに緑濃し
清和短歌会
巻きつきて主となりし藤すだれ
材価の安き杉の影なし
ふるりの史跡めぐりて先人の
智慧を授かり今に活かさむ
若き日に芝笛鳴らした野の道も
今は荒れ果て思いて残る

渡辺 勝子
大西久美子
工藤美智子
小野 紀子
本田 七郎
赤澤 富美子
山下 弘子
木下 スエオ
本田健二郎
菊池 幸子
菅 清次郎
村上 園江
渡邊 民生
兼瀬 哲治
大塚 叢司

交通標語

まだ行ける 油断で渡ると 事故にあつ
思いやり 持った運転 事故防ぐ
平田将也(矢部高校1年)
高橋あゆみ(矢部高校3年)

「第20回5・23差別をなくす山都地区集会」アンケートから

「小学生・差別をなくそう」と思いました。また参加しようと思いました。
「中学生」差別を生懸命なくそうとする人がいるので、僕も無くして行けるように努力したいです。
「高校生」それぞれの発表が、何を伝えたいかが伝わってきて、とてもすごい発表でした。部落やあの人に近寄りた方がいいと、偏見だけで決めるのはおかしいと思えます。こんな差別をなくしていくため、自分で考えていきます。
「保護者」解放子ども会の人たちが、リボン登校とかをどうやって残すのかを考え、劇をやり、残していくということがすごかったし、みんなに伝わったと思います。
「保育園の人たちから、小学生の人たちが、大きな声で発表していて、とってもわかりやすかったです。差別はいけないとうたえていたことがよかったです。差別は歌などもしっかり大きな声で元気よくうたっていたから、すごく楽しくなりました。
「20代」・「人権」「同和教育」への興味を持つきっかけになる場だと思えます。こんなふうには頑張っている人たちがいるんだな!! 人事ではなくて自分たちの身近な問題なんだな!! と思えたと思います。来年も来ます。
「30代」子ども達の発表を聞いて、子どもたちの意識、家庭の意識の豊かさを感じました。大人の責任として、差別をなくす一員であること、差別をしない、ゆるさない子どもを育てていくことを感じました。
「40代」・子どもたちが、差別をしない、いじめを許さない気持ちを持っていて、いいと思います。部落差別だけでなく、戦争などを扱っており、人権問題に広がりを感じるものでした。社会に目を向け「おかしな」こと「おかしな」と気付ける子が増えてくれればと思います。
「50代」子どもたちの発表に元気をもらいました。又、周囲の人たちの言動が子どもたちのあり方に関わっていることを改めて実感しました。大人こそしっかりと差別をなくす取り組みを展開して行かなければならない、住みよい地域づくりを進めなければならぬ、と、気合が入りました。
「60代」子どもたちの素直な発表を聞いて、新鮮な気持ちになりました。この集会が、人権を大切にすることを、町民に広く周知されて行くことを



期待します。
「50代」劇「残す」何を残したいかがわかりました。ただ、内大臣のこと、リボン登校のことなど、できごとについて簡単に説明をしたらとうとうわかりやすかったと感じました。子どもたちの劇、発表を企画された子どもたちが参加し伝えていくことの意義の大きさを感ぜています。「平和なくして人権なし、人権なくして平和なし」このことを今こそアピールしていきましょう。
「差別をなくす心」が私の中にもあります。この集会を通して自問し、絶対してはいけないと思えました。行動に移したいと思えます。
「子どもたちの人権学習の学びから、感じたことが実感でき、心が熱くなりました。親への感謝、仲間の大切さを堂々と伝えてくれたことがうれしいです。ありがとうございます。」
「60代」子ども主体のすばらしい集会でした。差別と区別、人間としてよくないと思えました。平等心を持って正しい人間関係を築いて行きたいと思えます。
「70代」「差別をなくそう」ということは随分問題にされていて「なくさなければいけない」と漠然と人権について考えている自分がいて反省です。子どもたちや指導者の方々の真剣な取り組み、発表に私の知らなかった事もあり、一人一人自覚して取りくまなければいけない事だと思えました。

山都町の人口

(平成27年6月30日現在)

| | |
|----|---------------|
| 男 | 7,859人 (-15) |
| 女 | 8,441人 (-22) |
| 計 | 16,300人 (-37) |
| 世帯 | 6,657戸 (-2) |

※()は前月比
※最高齢は106歳【女性1人】
※平成27年6月の出生者数 5人
※平成27年6月の死亡者数 28人

編集後記

先日、福岡県の広報担当の方とお話する機会がありました。その方は広報担当になり4年目でたくさんアドバイスをいただきました。カメラの設定から、イベントの撮影の際にどうやって写真で動きを伝えられるか等の工夫できることを教えていただきました。出会ってお話しなければこういった情報は入らなかつたと思うと広報はたくさんの方との出会いから作れる仕事だと改めて感じました。たくさんの方々の情報をいただき、その場所に行き、見て、会話して1つの記事になる。うまく表せませんがすごい経験をさせていたと思います。(椎木)

山都町観光案内所

ギャラリー喫茶 ルポン ☎72-1054

(営)9:30~17:30 毎週水曜日定休日

『僕らの清流 僕らの風景』

出展者: green photo club

期間:平成27年7月2日(木)~7月31日(金)午後3時まで

矢部の滝(48)をはじめ、菊池溪谷や九州の風景写真をそれぞれの視点で撮りました。
参加者(5名) 作品約40点程。